

15年度「もずく基金」贈呈式

16年度産地視察・生産者交流会



4月7日～4月9日
草野みどり・高橋喜代美

コープCSネットで「もずく基金（サンゴ礁再生事業支援）に取り組んでいます。5周年の2015年度「もずく基金」贈呈式に、原料産地の沖縄県恩納村に、製造メーカーの(株)井ゲタ竹内、コープCSネットおよび中四国6生協の役職員・組合員が訪問しました。もずくの育成に密接に関係しているサンゴの状態を実際に視察し、沖縄の文化・風土に触れ、環境・平和の問題はあるものの、生産者の恩納村漁業協同組合の若い海人（うみんちゅ）と交流し、元気をもらってきました。



4月7日（木）（左）コープCSネット小泉理事長（右）恩納村漁業協同組合山城組合長
2015年度の「もずく基金」2,024,892円を贈呈しました。

●みんなで里海づくり

自然な海をそのままじゃなく、人の手を加え、積極的に自然に関わり、豊かな海（水産資源・観光資源等）を守り続けることを「里海づくり」とよびます。

恩納村漁協は、サンゴの天敵オニヒトデの駆除やサンゴの植え付けなどで里海づくりをされてきました。しかし漁協だけでは、資金も足らず豊かな海を守りきれません。そこで、行政の恩納村・もずく生産の恩納村漁協・もずく商品を製造する井ゲタ竹内さん・企画するコープCSネット・利用する私たち生協ひろしまが手を結び協力しています。みんな仲良しで、顔を見て「どうやったらもっとよくなるかね」って、話のできる関係なんです。

「もずく基金」の対象商品であるCO・OP恩納村産味付け糸もずくを、我が家でおいしく食べることが、サンゴ礁を守る活動につながっています。我が家だけでなく、お隣さんやお向かいさん、生協しまねのお友達や、コープやまぐちの方々の利用の積み重ねが、「里海づくり」の活動に生かされます。海を守り、来年、再来年と…、生まれてくる孫の食卓にもおいしいもずくを届けることにつながるのです、感動です！！。

さらに、組合員・生産者が交流することで、お互い元気をもらえるんです。

若い海人の勝さんの指笛は最高です。サンゴの父である銘苅さんと博士の比嘉さんがいたから海ぶどうの陸上養殖が始まることができたのです。高品質のぶちぶちがおいしい恩納村の海ぶどうが食べれるんです、感謝です！！。交流会があるから若い海人が増えてるんですって。私たちのために「もっと頑張ろう！」って、思ってくれるんですって。感謝です！！。



もずく基金額とサンゴ植付本数

年度	本数	基金額(円)
2010	32	1,690,720
2011	520	2,049,907
2012	780	2,271,973
2013	806	1,909,416
2014	680	2,000,137
2015	715	2,024,892
計	3,533	11,947,045
2016	720(予定)	今年の利用で

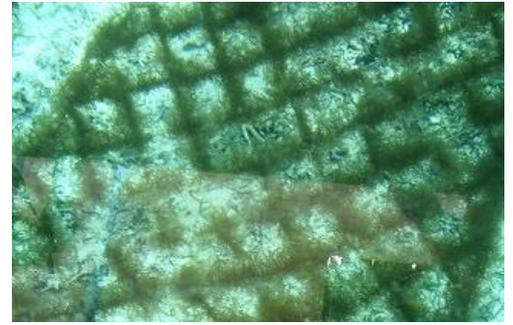
●グラスボートで海をのぞくと・・・

54種のサンゴを育成されてるそうです。54種まではよう数えられませんが、ミドリイシ科のサンゴを中心に、色んな形、色んな大きさのサンゴが、海中に設置された杭の上で揺れてました。色とりどりの小魚が、住み着いているのが見えました。別の場所ではゆらゆらと、成長途中の太もずくがついてる網が見えました。

温暖化の影響なのか、昨夏は海水温が高かったそうです。さらに今年1月23日に沖縄に37年ぶりの雪が降りました。悪天候による大波で収穫前の糸もずく、ただでさえ希少な恩納もずくも流されてしまいました。もずくの減産リスクを想定し、例年2回の種つけを5回に増やし、3tの種をつけたのですが、残念ながら予定量の収穫はきませんでした。これから収穫する太もずくは大丈夫！、十分な量があるそうです。安心しました！！



←
海中に設置された杭の上で、サンゴが揺れていました。



→
養殖網に、成長途中の太もずくが育っています

●サンゴについて

サンゴは1個のポリプが分裂して成長して群体を作る雌雄同体の骨のある生き物です。
サンゴがたくさん集まって、長い年月をかけてサンゴ礁という地形を造ります。
サンゴ礁は、海の面積の0.2%ですが、海産物の25%がサンゴ礁を頼って暮らしています。
サンゴは褐虫藻（植物プランクトン）と共生しています。
海水温が30度を超え、褐虫藻がサンゴから出て行くと、栄養不足になったサンゴに白化現象が起こります。
1998年に地球規模で、2001年に沖縄海域で白化現象が起こりました。近年、カリブ海からインド洋、オーストラリアと昨年から白化現象が確認され、その後を予想したくない状況だそうです。



サンゴは生き物

たくさん集まって・・・



サンゴ礁はサンゴがつくった地形

海の面積の0.2%

●サンゴ移植体験

サンゴを大きくして海に戻すための移植を行いました。
もずく基金は、サンゴの植え付け活動に使われます。サンゴ1本につき基盤やダイバーの費用などで2800円かかります。

- ① 円柱形の自然石でできた基盤にメッセージや絵を描きます。
- ② 基盤の穴に2つ折りの針金を通します。
- ③ 海水に基盤と自分の手を15秒つけて十分冷やします。
- ④ サンゴのかけらの上下を確認して、基盤の上に置き、針金できつく固定します。（サンゴは群体なので、割っても死なない）
- ⑤ 記念撮影したら海水中に置きます。

あとでまとめて海中棚へ運び、約半年間、中間育成したのち、植えつけます。
植え付けて3～5年から、1年に1回産卵（2015年は6月26日）します。

